

令和4年度スーパーグローバル大学創成支援事業プログラム委員会 議事概要

1. 日 時：令和5年3月24日（金）15:30～17:30

2. 形 式：オンライン会議

3. 出席者：

（委 員）岡島 委員、小川 委員、帯野 委員、黒田 委員、小林 委員、サコ 委員、
日比谷 委員、平子 委員、マルクス 委員、正宗 委員、三島 委員、米澤 委員
（文部科学省）池田 高等教育局長、西條 大臣官房審議官、小林 高等教育局参事官（国際担当）、
吉岡 参事官付専門官 ほか

（事務局）水本 独立行政法人日本学術振興会理事、山本 人材育成事業部参事、遠藤 大学
連携課長、持田 同課長代理 ほか

4. 概要

（1）大学の国際化施策の最新状況について

「資料1 大学の国際化にかかる施策の最新状況」に基づき、文部科学省から説明があった。
主な意見は以下のとおり。

- ・日本人学生の派遣について、円安の影響を考慮して後押しすべきである。
- ・先進国からの留学生を増やし、高度人材の育成につながる施策が必要なのではないか。
- ・留学生受入に関して、社会全体のグローバル意識を高めることや、より多くの留学生を呼び込むための方策についても検証し、実行していく必要がある。
- ・国際化促進の成果が出るまでは一定の時間がかかるため、戦略的・長期的ビジョンをもって支えていくべきである。
- ・JV-Campus は日本人学生のみならず海外の学生にとっても有益なものになり得る。より効果的に機能させるための支援について課題等があれば検討すべき。

（2）スーパーグローバル大学創成支援事業検証結果について

「資料2-1 『スーパーグローバル大学創成支援事業』の検証まとめ（案）」及び「資料2-2
SGU指標の取組状況」に基づき、文部科学省から説明があった。主な意見は以下のとおり。

- ・SGUが10年という長期間で実施してきたことが非常に価値のあることであった。
- ・大学全体の国際化、つまり専門職のみならず、執行部・スタッフといった大学の中にいる人材すべてにおいて、包括的に国際化を進めることが重要。
- ・留学生受入は増加したが、彼らが日本企業に定着できるように、日本の社会や企業文化を学べる講座を開設したり、インターンシップや産学官の連携がもっと出来ればよいのではないかと提示できるか。高度人材としての専門スキルが、日本でのキャリア形成にどう活かせるか提示できると良い。
- ・JV-Campus を社会人に開放することで、大学のオープン化・社会人のリスクリングが可

能になるとともに、社会人の意見をフィードバックすることで JV-Campus の価値が上がっていくのではないだろうか。

- ・国際化の観点として、平和への貢献や SDGs 等のグローバル課題にどのように対処していくか、また、どのように研究力強化に繋げていくのかという点もポスト SGU を考える上で重要になっていくのではないか。